

汰付于田村能登左近大夫教俊之狀、依仰執達如件。

建武四年五月十八日

(高師直)
武藏權守 在判

富樫介殿

十一月。能登守護吉見賴隆、鹿島郡永光寺領羽咋郡若部保に士庶の亂入狼藉を停止す。

【永光寺文書】 鹿島郡

二八二

永光寺領能登國若部保地頭職事、當知行無相違之上者、軍勢甲乙人等不可致亂入狼藉之狀如件。

建武四年十一月日

(吉見賴隆)
大藏大輔 在判

延元三年 戊寅

建武五年 京都

曆應元年 八月廿八日 改元

紀元一九九八

二月十三日。平行兼、鳳至郡寶泉寺に羽咋郡湊保南方兵庫村の内を寄進す。

【寶泉寺文書】 鳳至郡

二八三

敬白 觀世音菩薩御寶前

奉寄進所領能登國湊保南方兵庫村内

田三百石屋敷堂宇 在所諏訪事 御宮前

右田屋敷者、以僧惠勝奉憑祈禱師匠之間、於彼田屋敷者、眼、永代奉讓與之處也。無他妨可被知行之也。仍讓所狀如件。

建武五年二月十三日

平行兼 在判

(本文中に寶泉寺の語を見ず、又寄進地も遠隔せりといへども、惠勝は同寺の中興開山と傳へられ、觀音堂跡も寺内に存するが故に、亦寶泉寺に寄進せるなりと考へらる。)

延元四年 己卯

曆應二年 京都

紀元一九九九

十二月十三日。光嚴院、鹿島郡永光寺に利生塔を修造せしめ給ふ。

【永光寺文書】 鹿島郡

二八四

能登國永光寺塔婆事、爲勸願之儀、遂修造之功、殊可奉

祈天下泰平者、院宣如此。仍執達如件。

曆應二年十二月十三日

(勸修寺)
按察使 經顯

智洪上人御房

(無涯智洪は永光寺第三代の住持なり。)

【永光寺文書】

二八五

能登國永光寺塔婆事、院宣如此。爲六十六基之隨二寄料所可造立狀如件。

曆應二年十二月十三日

(足利直義)
左兵衛督 在判

永光寺長老

十二月。能登の士得江頼員、越前に於ける軍忠を具申して斯波高經の證判を求む。

【得江文書】

二八六

得江九郎頼員申軍忠事

一、爲對治越前國凶徒、今年二月三日馳參當國同廿八九兩日凶徒等寄來經峯之間、馳向一陣致合戰

追歸御敵訖。

一、同四月一日押寄鳥羽城大手、致軍忠訖。

一、同六月押寄西方寺城、抽合戰忠節畢。

一、同十七日凶徒等寄來伊部岡之間、爲後攻馳向彼陣

致戰功、追歸御敵訖。

一、同廿六日押寄西方寺城致合戰之處、東郷内中嶋城

凶徒等爲後攻懸出之間、頼員懸先一陣、追歸御敵、押寄中嶋城矢倉下、越堀付堀、不惜身命致合戰之刻、若黨

吉原兵衛五郎光俊被疵、被射右股

一、同五月六日西方寺并中嶋城凶徒等、寄來木田城之間、馳向春日宮前致散々合戰、追歸御敵訖。

一、同廿七日押寄中嶋城、捨身命致戰功、追落彼城

訖。

一、同六月十五日凶徒等寄來伊部岡城致合戰之處、御方數十人討死訖。仍御敵責入彼城之時、馳向彼陣致軍

功、追落凶徒、如元人替御方於城中訖。

一、同廿九日凶徒等寄來經峯城之間、爲後攻頼員馳向